

博物館だより

No.200



令和5年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

博物館休館日カレンダー
2023年7月

日	月	火	水	木	金	土
25	26	27	28	29	30	1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31	1	2	3	4	5

休館日 ※情報はR5.6.20現在

◆博物館NEWS

「文化のみやこづくり」記念プロジェクト

わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール 小学生歴史たんけん作文コンクール

博物館では京築地区の小中学生を対象に、ふるさとの歴史と文化ゆかりの絵画・作文コンクールを開催します。

これは夏休み期間を利用して、家族や地域、歴史や文化について興味を抱いたものや他の人々に紹介したい事柄などを、絵や文章で表現するコンクールです。募集作品のテーマや応募要領は次の通りです。皆さん奮って自慢の作品をお寄せ下さい！



★わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール(3部門)

三つの部門からテーマを選び、わたしの町の「過去・現在・未来」について、あなたのお気に入りの文化遺産について描いて下さい。

★歴史たんけん作文コンクール

この町や地域の歴史、昔の話や、歴史の本を読んだ感想、先人の生涯など「歴史」に関することを書いて下さい。

【吉田兄弟物語部門】(町内校のみ)

町内校を対象として、本年配布した、みやこ町先人顕彰マンガ「吉田兄弟物語」を読んだ感想を書いて下さい。

◆応募要領(概要のみ)

- ・メ 切：9月15日(金)
- ・応募方法：博物館へ郵送又は持参
- ・その他：入賞者へ賞品贈呈

これ以外の詳しい応募要領については博物館 ☎33-4666へお問合せ下さい。

◆博物館NEWS

★講座・教室・催し物ガイド

7月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】7月1日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】7月8日(土) 10時～
- 【古典かな講座】7月15日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】7月22日(土) 10時～

※日程等変更となる場合があります。見学会等は別途通知します。

令和5年度夏休み子ども博物館昆虫博士とく

博物館では「夏休みは色んな学びにチャレンジ」する体験教室を開催しています。今年「昆虫」をテーマに採集・観察教室を左記要領で開催します。奮ってご参加下さい！

日時 8月6日(日)

*受付 7時30分～

*教室 8時～11時(見込み)

場所 犀川公園(本庄池)

内容 ①公園内での採取・観察活動

②講師 松田勝弘さん

※採集歴60年超の講師による採集指導と面白昆虫話など

参加費 200円(一人につき)

対象者 みやこ町内の小学生

定員 先着20名(保護者含む)

注意事項

- ※申込は7月8日(土)9時から電話または窓口にて受付けます。
- ※保護者の同伴(原則1名)が必要です。
- ※捕虫網や虫かご等は持参ください。
- ※荒天時中止(前日夜までに連絡します)
- ※昆虫の採捕をお約束するものではありません(ごっこを含みおきてください)

文化遺産ボランティア豊み隊！活動案内

7月から実稼働に入り、ワーク編作業(永沼家住宅周辺除草作業)を左記の要領で行います。興味のある方は、博物館宛てお問合せ下さい。

- ・日時：7月23日(日) 8時～
- ・場所：永沼家住宅(犀川帆柱)
- ・備考①現地集合・解散です。
- ②荒天時中止(前夜までに電話等で連絡します)。
- ③登録会員は別途ご案内します。



▲採集・観察会で観察できるかもしれない昆虫たち(左：クワガタ/右：アオカナブン【松田勝弘資料から】)当日は会場で講師の松田さんから採集時のアドバイスや採集昆虫についての実地解説を頂く予定です身近な昆虫でも知らなかったことや謎の解明が進み、新発見・再発見の一日になることを目指します

夏休みの思い出づくりはいかがですか?お申込みお待ちしております!!



みやこの歴史発見伝 159
 明治の二大文豪を支えた
 みやこの町の偉人 ⑤

かき氷とアイスクリーム

今年も本格的な夏を迎え、アイスクリームのおいしい季節が到来しました。子供から大人まで好まれているアイスクリームですが、気温23℃を超えるとアイスクリーム、30℃を超えるとかき氷の需要が増えるという統計もみられます。日本では、かき氷の歴史は古く奈良時代ごろまで遡るとみられています。(博物館だより154号参照)



夏目漱石肖像
 (みやこ町歴史民俗博物館蔵)

夏目漱石
 やその門
 下がアイ
 スクリー
 ムに込め
 た思いに
 まつわる
 エピソー
 ドをご紹
 介します。

り」という感想と併せ、そのレシピが記録されています。その後、横浜の町田房蔵という人物が明治2年(1869)6月に販売を開始しますが、当時の一杯は、現在の貨幣価値に換算すると約8000円とかなり高額であったことが確認できます。夏目漱石は慶応3年(1867)に生まれ、その翌年に明治維新を迎えます。これ以降、急速に「食の西欧化」が進みますが、日本人に馴染みのない様々な食品の中でもアイスクリームだけは年齢を問わず好まれたと伝えられ、明治6年(1873)7月17日に明治天皇がアイスクリームを食したことをきっかけにその名前が広く知られることとなります。

家庭用アイスクリーム製造器
 夏目漱石は甘いものが大好きで、特にアイスクリームは彼が最後に口にした食べ物の一つであったことをご紹介しました。(博物館だより195号参照)

彼はアイスクリーム好きが高じて「アイスクリーム製造器」を使って「ホームメイド」のアイスクリームを楽しんでいます。これは1846年頃にアメリカで発明されたもので、明治9年(1876)には日本に輸入され製造・販売されました。樽の中央に筒状の金属製容器を設置し、この中に牛乳、卵黄、砂糖を入れて蓋を閉め、この筒を取り囲むように氷を入れ筒状容器の上部にハンドルを取り付けて回しながら攪拌する仕組みで氷に塩を加えると冷却速度が増し、さらに早く完成させることができました。しかし夏の暑さの中で30分以上もハンドルを回し続ける作業は大人でも過酷であったという記録が残されており、この当時アイスクリームを口にするには大変な苦勞を伴ったことが窺えます。漱石の次男の回想録の中には、真夏の暑い日に、漱石が掛け声をかけながら子ども達と一緒にハンドルを回し、この機械でアイスクリームを作ったという記述がみられます。

当初は高価であったアイスクリームも、この「家庭用製造器」の普及によって明治時代の後半頃には一般の人々にも食されるようになりました。

漱石門下が記したアイスクリーム
 漱石は、『行人』、『こころ』、『虞美人草』『それから』など自身の文学作品にアイスクリームを登場させています。漱石の大家友であった正岡子規は明治32年(1899)の夏に高浜虚子宅を訪ねた際にアイスクリームをご馳走になり「この味5年ぶりとも6年ぶりとも知らず」という言葉を残しています。また夏目漱石の門下で彼の小説「三四郎」のモデルになった、みやこ町出身の小宮豊隆が修善寺で療養中の漱石を見舞った際、アイスクリームを作りますが、これを食べた漱石から「塩辛い」と言われてしまします。これは小宮が材料の砂糖と冷却用の塩を間違えたのではないかという見解がみられます。この小宮豊隆と特に親しかった寺田寅彦は銀座にあった氷菓子屋のアイスクリームが大好きで「特にヴァニラの香味が何とも知れず、見た事も聞いた事もない世界の果の異国への憧憬をそそるのであった。」と述べています。ま

た、門下の芥川龍之介は父親が牛乳販売業を営んでおり、早くからアイスクリームに親しんでいたと伝えられています。

このようにアイスクリームの味に魅了された漱石自身や門下生が多く、文学作品にアイスクリームが登場させている理由として、彼らにとっても当時のアイスクリームは「高嶺の花」であったことを窺うことができ、これらの作品は、現在も多くの人々に読まれています。明治時代以降、アイスクリーム製造技術の向上や物流の発展等によって、現在では比較的安価で気軽に購入できるようになりましたが、このような文学的視点を踏まえてみると、これまでとは一味違うアイスクリームを楽しめるかもしれません。



▲「氷コップ」に盛られたアイスクリーム

(井上信隆)